

令和7年度 第2回 介護・医療連携推進会議 記録

- 事業所情報

法人名	社会福祉法人くらしのハーモニー
事業所	24時間サポートくらしのハーモニー

- 開催日時・場所

日時	令和8年3月13日付け
場所	対面にて開催

- 参加者(文書返信のあった事業所・担当者) (順不同)

NO	所属 (役職)	氏名
1	ラハイナ訪問看護ステーション	水口氏
2	くらしの相談室	菅野氏、中村氏
3	宇治市介護保険課 給付係	小原氏
4	定期巡回・随時対応型訪問介護看護 宇治徳洲会	森山氏、池島氏
5	ハーモニー東風館	大石氏
6	24時間サポートくらしのハーモニー	川端、龜田、伊東
7		
8		
9		
10		
11		

- 議事

NO	議事内容(文書にて送付した内容)
1	サービス提供実施状況と事業の動向、令和7年度の振り返り
2	事例紹介
3	参加者からのご意見交換・ご要望
4	

サービス実施状況(令和7年4月1日～令和8年2月29日)

【利用実績】

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用実人数			41	39	38	37	33	35	
居住場所		東風館	28	28	28	26	24	27	
		自宅	13	11	10	11	9	8	
(再掲)	新規	新規利用者数	2	1		1		3	
		相談 経路	暮らし 居宅	2	1				3
			他居宅				1		
	終了	終了者数	3	2	1	5	1	2	
		終了理由	他施設へ	訪看導入 他施設へ	入院	入院 逝去	自己にて入 浴可能に	他施設へ	
				10月	11月	12月	1月	2月	平均
利用実人数			35	35	36	36	38	36.6	
居住場所		東風館	29	29	30	30	30	28	
		自宅	6	6	6	6	8	8.5	
(再掲)	新規	新規利用者数			2		2		
		相談 経路	暮らし 居宅			2			
			他居宅					2	
	終了	終了者数		1					
		終了理由		逝去					

【介護度別サービス利用状況】

介護度	人数 (内、東風館)	定期訪問 計画回数 ※日平均	その他サービス利用状況				
			定巡 訪看	医療 訪看	障害 ホームヘ ルプ	通所系サービ ス(内、こはた)	居宅支援 事業所
						平均利用回数	
要介護 1	20 (15)	2.3	6	1		8(1) 2	暮らし:15 他居宅:5
要介護 2	11 (8)	3.5	5			7(1) 1.7	暮らし:8 他居宅:3
要介護 3	10 (6)	3.9	6		1	6(1) 2	暮らし:7 他居宅:3
要介護 4	5 (3)	4.5	4			2(1) 1	暮らし:3 他居宅:2
要介護 5	7 (4)	4.8	4	1		4(4) 2	暮らし:4 他居宅:3

【平均介護度詳細】

①サ高住利用者	2.2	②地域居住利用者	2.58	③全体	2.2(前年度比-0.1)
---------	-----	----------	------	-----	---------------

【利用者詳細】

世帯状況	独居：28名 ※独居のうち、サ高住：25名 同居：25名 ※独居のうち、サ高住：11名		
平均年齢	87歳(前年度比+1)		
男女比	男性：16名 女性：37名		
主な疾患や症状	パーキンソン病、糖尿病、心不全、腎不全、白内障・緑内障、前立腺肥大症、骨粗鬆症(転倒骨折)、K末期、廃用性症候群、幻覚性妄想障害、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、不安障害、痔核、脳腫瘍、多系統萎縮症、ALS、後天性難治性血友病、進行性核上性麻痺等		
通所系サービス利用者数	27名	週あたりのデイ利用回数	1.8回(平均)
1日3回以上の定期訪問利用者数	32名	ショートステイ利用者	2名
主な利用ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ▼物忘れや生活行為遂行が不十分で、食事水分や内服、家事支援、安否確認等、生活全般の支援をして欲しい ▼パーキンソン病で適切な内服が必要だが飲み忘れがあり、内服支援をして欲しい ▼自宅(サ高住)で終末期を過ごすための厚いケア体制を整えたい ▼急激な心身状態の変化で生活が乱れており改善したい ▼転倒で起き上がれない、または転倒による骨折を繰り返しており、緊急時に対応してもらえる体制を整えたい ▼1日4回以上の点眼の介助をして欲しい ▼高齢な介護者の負担軽減のため、毎日移乗や排泄ケア等を提供欲しい ▼家族も高齢となり世話に通うのが大変なため、負担軽減したい ▼サ高住での新生活でどんな支援が継続的に必要かを見極めるため、生活状況のアセスメントをして欲しい ▼突然の退院指示で正確な情報が得られず、退院直後の不安定期を支えつつ、心身状況・生活状況のアセスメントをして欲しい ▼障害などのサービスを整えるまで支援をしてほしい 		
主な定期訪問のサービス内容	起床就寝介助、排泄介助、陰部洗浄、更衣介助、移動・移乗介助、入浴介助、食事(弁当やレトルトなど)の温め、盛り付け、簡単な調理、配膳下膳、後片付け、洗濯、掃除、臨時の買い物、内服促しや確認、水分摂取促し、安否確認、戸締り、ごみ整理・ごみ出し、汚物処理、不安の傾聴、その他		
緊急コール・随時訪問の主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自力でトイレに行けないので助けて欲しい ・支援時体調不良の様子あり、後に臨時で状況確認 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・点眼がうまく出来ないので介助して欲しい・「不安で動悸がして息苦しいので助けて欲しい」 ・「排泄を失敗してどうしたら良いか分からない」 ・「足腰が痛くて動けないので助けて欲しい」 ・「転倒してしまって動けないので助けて欲しい」 ・「ベッドから落ちて動けないので助けて欲しい」 ・声は聞こえるが内容が聞き取れず、状況確認(誤報)
定期訪問回数	随時訪問回数
115 回/日(平均)	384 回/月(平均)

《今年度の振り返り》

今年度は、定巡と訪問介護を一体的に運営する初年度となりました。訪問介護の管理者と連携し、これまでの歴史と取組の良さを継承しつつ、新たな運営の在り方を模索した一年でした。今年度のサービス提供動向としては以下の通りです。

当事業所は令和7年1月からサービス提供9年目に入り、昨年度よりもご利用者は増え、今年度は年間を通して平均約36.6名(前年比+3.8名)のご利用者へサービスを提供することができました。

利用者数の動向としては、新規ご利用者の8割がサ高住のご利用者でした。それに伴い支援件数が増加し、サ高住ご利用者へのフォロー対応を優先して実施しました。その結果、地域利用者の新規獲得に向けた活動は限定的となり、昨年度は10件あった地域の新規も今年度は3件まで落ち込みました。夏季において地域利用者を中心に、入院後の在宅復帰が困難となるケース等の影響により、ご利用者数が減少する傾向が見られました。一方で、サ高住相談員との連携を図り、サ高住利用者の利用促進に取り組んだ結果、昨年度を上回るご利用者にくらしの定巡サービスを提供することができました。

今後は、サ高住のご利用者だけでなく地域の方にも「くらしの定巡」を利用していただけよう、サービスの質の向上に努めるとともに、インスタグラムや広報活動を通じて「くらしの定巡」の価値を幅広く発信したいと思っています。

今後とも、宜しくお願い致します。

★《事例紹介》

★ A様：73歳、女性、独居、うつ病、不眠症

▼【これまでの経過】

A様はこれまで長年、パーキンソン病を患う夫の介護をされていましたが、夫の入院を機に独居となり、役割の損失や生活環境の変化が重なったことで、不安障害が増悪、うつ状態及びパニック発作により精神科へ入院されていました。薬剤調整により症状は改善、退院にあたり、A様より、自宅で一人で過ごすのは不安なため、できれば施設で過ごしたいとの希望があり、サ高住に入居となりました。入居に伴い、服薬管理などを行うために定巡導入となりました。

▼【サービス内容】

- ・内服確認、体調確認、掃除支援、緊急訪問、等。

▼【支援導入後の経過】

入居直後は大きな問題なく生活されていましたが、便失禁をきっかけに強い不安や落ち込みがみられるようになりました。食事を全てキャンセルしてほしい、食事が来るのが怖いといった訴えがあり、食事摂取に対しても消極的な様子が見られました。また、便失禁後は下剤などの内服を拒否するようになりました。

その後さらに精神的な不安が強まり、水が怖い、変な音がする、建物が爆発するかもしれないなど、周囲の状況に対して過度に不安を抱く様子がありました。夜間には他の居室の様子を気にして扉を開けようとするなどの行動もみられました。

定巡では毎日訪問していたため、訪問時の様子や発言の変化から、本人の不安や精神面の状態が徐々に変化していることに気づくことが出来ました。こうした変化については、その都度ケアマネージャーへ報告し、情報共有を図りました。その結果、主治医へも状況が共有され、入院による治療が必要と判断されました。

入院後は薬剤調整が行われ、強い不安や妄想的な言動は軽減されました。約半年後には、入院前の状態について周囲へ迷惑をかけてしまったことへの思いや、再発への不安を話される場面もありました。一方で、帰宅後も迷惑をかけないように服薬回数を減らしたいという前向きな話も語られました。症状が安定していたことから退院となり、サ高住での生活に戻り、定巡が再開となりました。

退院後は本人の負担軽減や生活リズムを考慮し、昔からの習慣に戻し昼食は摂らず食事は1日2回とする形となりました。内服についても朝・夕・眠前のみとなり、内服確認の回数を減らしました。入浴は専門職による対応の方が本人の安心に繋がるため訪問看護での支援に移行していますが、調子によっては入浴を断れることもあるので、定巡にて毎朝の洗面や保湿剤の塗布を促し、清潔保護とリラックスに繋げています。あわせて食事量、排便状況の確認を行いながら、現在も日々の小さな支援を通して、生活全体を支えています。

▼【支援開始時の訪問スケジュール】

定期巡回サービス予定表		
	サービス提供時間	サービス内容
4:00		
5:00		
6:00		
7:00		
8:00	8:46~8:50	内服確認、体調確認
9:00		
10:00		
11:00		
12:00	12:56~13:00	内服確認、体調確認
13:00		
14:00		入浴
15:00		
16:00		
17:00		
18:00	18:46~18:50	内服確認、体調確認
19:00		
20:00	20:36~20:40	内服確認、体調確認
21:00		
22:00		
23:00		
0:00		
1:00		
2:00		
3:00		
24時間緊急対応		

▼【支援再開後の訪問スケジュール】

定期巡回サービス予定表		
	サービス提供時間	サービス内容
4:00		
5:00		
6:00		
7:00	7:30~7:35	薬手渡し
8:00	8:46~8:50	内服確認、体調確認
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00	13:45~14:15	掃除
14:00		
15:00		
16:00		
17:00		
18:00	18:46~18:50	薬手渡し
19:00		
20:00	20:36~20:40	内服確認、体調確認
21:00		
22:00		
23:00		
0:00		
1:00		
2:00		
3:00		
24時間緊急対応		

▼【まとめ】

今回のケースは、精神状態が生活リズムやセルフケアに大きく影響している事例でした。これまで精神疾患のある方を担当する機会が多くなかったこともあり、精神状態が日常生活に与える影響の大きさを改めて実感しました。

また、服薬の回数が多いことで訪問自体が増え、薬を飲まなければいけないという不安につながる場面もありました。支援を増やすことだけが良いとは限らず、訪問自体が負担になる場合もあるため、本人の状態に合わせて調整することの大切さを感じました。

一方で、定期巡回の短時間・高頻度の関わりは、小さな変化に気づきやすく、早期対応につながるサービスだと改めて感じました。今回の事例を通して、生活面から支える関わりや多職種で連携して支援することの大切さを学びました。

今後も日々の様子を丁寧に見ながら、その人に合った関わりを大切に、安心して生活を続けていけるよう支援していきたいと思えます。

《定巡サービスのご利用を通してのご意見・ご要望等について》

宇治徳洲会定期巡回：森山様

広報活動のところでInstagramを活用し、広報誌も作成しているということで、徳洲会としても今後実施していきたいと思っている。

介護支援センターくらしの相談室：菅野様

以前は定巡と関わりがあったが現在は無い状態。定期カンファレンスで共有していることがほとんどになっている。とある利用者で初めて定巡を利用した際に、定期支援の安心感が大きいと感じた。要介護5や看取りケースに対してもアプローチできるサービスだと思う。

ラハイナ訪問看護ステーション：水口様

定巡がある安心感から、東風館に入居を勧めたい利用者がいる。営業部長の如く東風館を宣伝したいと思っている。これまでも東風館に入居したご利用者は元気になっている方が多い印象。若い職員も多い為、よくコミュニケーションが取れているのだと思う。初めはどの職員がどなたの担当か分からなかったけれど、最近は職員とコミュニケーションを取る機会が増えた為明瞭になってきた。定巡との関わりの中で、アドバイスを定巡にアドバイスをする場面や、定巡職員からも質問が上がることも増している為、ご利用者に還元できていると感じる

⇒東風館には医療職がないという弱点があるものの、訪看との連携を行う事でご利用者も職員も安心することができていると思います。(川端)

宇治市介護保険課：小原様

定巡が相談に上がるケースとして以前は退院時等に多く見られたが。そういった利用者が少なくなっている印象。施設の増加等によりそちらに流れているかもしれないが、全体的に相談件数が減っている感がある。このことから、地域のご利用者で相談は上がるものの、実際に利用に繋がらなかったケースのその理由は何でしたか？

⇒他のサービスも鑑みた限度額の調整で合わないことが多く、訪問介護や施設入所を選択されるケースが多い印象。介護度が高い方々が在宅で暮らすことはやはり家族の負担にもなる為、施設入所の方向へ転換されることが多い。その為、要介護1～3のご利用者様が多くなっていると考えます。(川端)

介護支援センターくらしの相談室：中村陽様

入居の際のご利用者からの相談として「転倒」が動機として高い割合を占めている。また退院時にサ高住にそのまま入居できないかといった相談も増えてきている現状、定巡がサ高住に併設されているメリットが利用者とその家族のニーズに合致していると思われる。

デメリットとしてサ高住内の利用への意識が高くなると、職員の意識も内に向いてしまう懸念点がある。しかしくらしの定巡については地域居住者との関わりで外部に対しても意識が開けていることが、結果として良き方向に働いていると感じる。

他の定巡の動向を耳に挟むことがあるが、数秒の訪問で終えてしまう事もある様子。CMとしては生活上の課題について協議したいが、四角四面でしか返答が帰ってこない事もあり

柔軟な対応があまり見られないとの感想も見られている。事業所の体制や考え方や、利用者数が多い等違いがある為否定するつもりはないが、生活アセスメントをはじめ定巡の強みを発揮してほしい場面もある。その点、くらしの定巡はアセスメントを行い、柔軟に対応していると感じる。

ハーモニー東風館：大石様

・くらしの定巡は連携型。くらしの性質として理念型であり、どの職員も考え方が似通ってしまうが、連携している訪看等から様々な角度からの意見を下さる為、議論の機会となる。連携型の利点があるように思う。

地域の利用者でご本人のこだわりや生活の営みについて学べた為、東風館内の利用者に関してもそれぞれの利用者の自宅での姿を考えた関わりが出来ているように感じる。